



H25. 12. 6. No1318  
静岡県漁業協同組合連合会  
☎054-254-6011 Fax054-253-9343  
編集・発行＝指導部漁業振興課  
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

## 自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

事項等の取り扱いについて説明を行った後、本年度の施策要望課題として、とりあげた「①栽培漁業の継続と種苗生産体制の維持について、②水産関係の地震津波防災対策について、③地域水産物・水産加工品の6次産業化等の取組み支援について、④燃油税制における免税措置について」の4項目を説明提案し、それぞれ提案者及び関係者からの意見を求めながら協議・検討を行った結果、要望内容は、原案どおり承認されました。

さらに、26年度水産予算編成要望「①県漁連等水産関係団体が行う指導・委託事業に対する支援について、②資源管理・漁業経営安定事業について、③第14回静岡県水産加工品総合品評会について」の3項目が各々承認されました。

これらは、同日開催の同会議・実行委員会にて、日程調整後、関係部局を窓口として要請書を提出していくこととなったほか、11月22日自民党県連農林水産対策連絡協議会において同内容の要望書を提出するとともに、12月13日水産振興推進協議会が主催する県議会水産議員との勉強会における課題として取り上げる予定となっています。

なお、その他事項として、県水産局藤田局長から水産物の価値を磨く取組への支援を準備中である旨の説明を受けたほか、中部電力(株)静岡支店から浜岡原子力発電所の地震津波対策にかかる取組状況の説明を聞き、終了後閉会となりました。

### 1. 秋の叙勲・褒章 宮城島氏が旭日双光章を受賞

秋の叙勲・褒章受章者の発表が行われ、本県水産関係では、本会と信漁連が推薦した宮城島昌典氏（元県漁連副会長・現清水漁協組合長）が栄えある旭日双光章に輝きました。

宮城島氏は、地曳網漁業を生業とするとともに、これまで各種の陸上養殖業に取り組み、なかでも地下海水のメリットを最大限に生かしたヒラメ養殖技術により安定した養殖に成功した民間ヒラメ養殖の先達者であるほか、静岡漁協の事業譲り受けをとりまとめるなど、県下漁協系統組織の発展に努めたことの功績が認められ、受賞となりました。

また、(一社)大日本水産会が決定した水産功績者において、沖合・遠洋漁業関係の受賞者として西川角次郎氏（榎福積丸取締役副会長）が選ばれました。

ここに受章された両氏に心よりお喜び申し上げ、今後一層のご活躍を期待しております。

### 2. 静岡県 しずおか食セレクション

—平成25年度認定—

県では、県内農林水産物の中から、全国ひいては海外に誇りうる価値や特徴等を備えた商品を県独自の認定基準に基づいて厳選の上「しずおか食セレクション」として認定して、これらを戦略的にPRすることにより、「食の都」づくりを進める静岡県のブランド力向上を図る取り組みをしており、この度、平成25年度認定商品等が決定し、11月27日静岡市内において表彰式が行われました。

漁協関係としては、甘味と旨みのバランスに優れ、肉の色合いや食感が良く、幅広い料理に利用されている「戸田の本えび」（戸田漁協）、一艘曳きという漁法で水揚げしているの、傷が無く新鮮な「富士山しらす」（田子の浦漁協）、冷たい天然水で育ったので臭みが無く刺身などの生食に適した「富士山の湧水が育てた大々鱒 紅富士」（富士養鱒漁協）、CAS凍結により鮮度保持を可能にし、首都圏等遠距離消費地へおいしさを届ける「お刺身用冷凍生しらす」（県漁連）の4件が食セレクションの認定を受けました。

また、県産の農林水産物を使用した商品化後2年以内の加工食品を対象とする「ふじのくに新商品セレクション」の金賞として、「きんめ缶（水煮・バジルリーブ・綿実油）3種」（伊豆漁協）が表彰されました。

### 3. 水産施策要望事項などを承認

—25年度 県漁協組合長会議—

本会では、11月21日 県水産会館において、県内の漁協組合長や水産関係団体役員等 約50名の参加を得て、平成25年度の県漁協組合長会議を開催しました。冒頭、本会荒川会長が主催者挨拶、県水産局藤田局長が来賓挨拶をした後、荒川会長が議長となり議事に入りました。

会議の議題として、まず、24年度県漁協組合長会議の実行報告として要望事項の措置状況の説明を行い、その承認を得ました。次に、本年度各地区及び関係団体から提出された要望

### 4. 平成25年度魚種別系群別資源評価

—水産庁—

水産庁では、水産資源の適切な保存及び管理に資するため、我が国周辺水域における主要な水産資源の状況について、独立行政法人 水産総合研究センター等で構成される共同実施機関に委託し、資源調査を実施し、毎年、その結果を解析して資源評価を行っています。

さらに、外部有識者や漁業者との意見交換を行うとともに、全国資源評価会議を開催し、資源の水準・動向の判断基準等に関する意見に対し説明回答し、取りまとめを行いました。

今回の評価における主な魚種・動向・水準は、次のとおりとなっています。

マイワシ（太平洋系群）増加・中位、カタクチイワシ（太平洋系群）減少・中位、ウルメイワシ（太平洋系群）横ばい・中位、マアジ（太平洋系群）減少・低位、マサバ（太平洋系群）増加・中位、ゴマサバ（太平洋系群）増加・高位、サンマ（太平洋系群）横ばい・中位、ブリ 増加・高位、トラフグ（伊勢・三河湾系群）減少・低位、ニギス（太平洋系群）減少・中位、スルメイカ（冬季発生系群）減少・中位、スルメイカ（秋季発生系群）減少・高位、ヤリイカ（太平洋系群）増加・高位

### 5. 養殖場見学会（モニターツアー）を開催

内浦地区養殖漁場にて

本会は、11月30日沼津市内浦漁港を訪れ養殖漁場を見学するモニターツアー（(株)日本旅行静岡支店による集客）を県水産技術研究所、県かん水養魚協会、内浦漁協の協力を得て企画開催しました。天候にも恵まれ、ツアーに参加した32名はマダイやシマアジが入った養殖生簀を見学し、養殖魚の管理・給餌方法等の説明を受けました。さらに、実際の給餌やアジのさばき方・干物作り体験をしたほか、昼食には養殖マアジを味わい、その後、内浦漁協において、ツアー参加者の感想を交えながら漁業関係者との意見交換会が行われました。

これにより沼津地区養殖魚の食材としての良さ等が認識されていくことが期待されます。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう